





立教

大槻文庫

弓<sup>上</sup>上<sup>上</sup>國<sup>上</sup>は<sup>上</sup>光<sup>上</sup>る<sup>上</sup>を<sup>上</sup>僧<sup>上</sup>鏡<sup>上</sup>。

を<sup>上</sup>乃<sup>上</sup>り<sup>上</sup>お<sup>上</sup>ひ<sup>上</sup>に

抑是は東國

方國主乃老臣元長也。抑と先

君ハ賢明の徳を<sup>上</sup>し<sup>上</sup>て。常々<sup>上</sup>賤<sup>上</sup>り<sup>上</sup>業

まで<sup>上</sup>清<sup>上</sup>か<sup>上</sup>れ<sup>上</sup>ぬ<sup>上</sup>を<sup>上</sup>始<sup>上</sup>む<sup>上</sup>。抑<sup>上</sup>は<sup>上</sup>民<sup>上</sup>の<sup>上</sup>實

も<sup>上</sup>破<sup>上</sup>して<sup>上</sup>ぬ。去<sup>上</sup>程<sup>上</sup>を<sup>上</sup>し<sup>上</sup>の<sup>上</sup>道<sup>上</sup>を<sup>上</sup>み<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>ぬ

39-7918



2. 以はすを草乃雨露と潤ふ意を國  
 人之仰奉るに愛す。をうしむ君世代  
 去りぬ。保す思ふもや一をりぬ  
 の程ふ。たふす双渡袂を潔くし。以君  
 世は傳ふしの時。大舞契は仰せし圖  
 は本文紙題しむ。学館は掛し作す  
 一。幾程の陰をせむしては程ふ  
 志しし事やみては。嗣君紹述乃  
 仰志しや承る。廢れし教をとも挙げ  
 行りぬ。今日吉日とて。先君  
 乃御筆を学館に掛奉り。保れ思ふも  
 人。志しし事や存し。<sup>上</sup>加ふは  
 賢君の仰す。志しし事や存し。日教を  
 たり。二年は成るなり。<sup>上</sup>時代は



民草をそのくせ

雨露繁

記青紫山うねる急の頃

勢めこれ紫式志をかけたそ仰きみん

急みおれ代り

坂乃そ頃も。初も仰そ。君仰く

是はバ学校長として。明言経出

講され者まら。夫治すれ仰代の

志前とそ。聖乃そは語とそ。学を

者いあの利り。好更りあ先の

代乃。君書すそ教等の語。バ講堂

かせんそえ。國老來りあそ。百余人

乃学官に始して。教百人の徒生

多る近。おの。爰に出入。昔唐

舞の世を治免。時の多振も。お







又教ハ五倫ヲをシ。又此の道ハ其意  
を委シテ示シテ聞セ給ヘ。我  
不肖モ其レトモ。ソレテ教職をモ兼アレル。  
是ハ増演説ハ。抑五教也。ソレハ  
人倫を五部ニ分けテ教ヘナリ。又此ハ道ハ  
ぬ身レ付テ少シク親。親弟ハ序信アリ  
の事ヲを立ルテ人トシテ又倫の道ヲ是。

ふときは。人の形ハ叶ハ。聖人是と憐  
カシ。仮初ガぬ事ヲと。いふと氏を  
以多クカシ。以教ハを示され。了持  
子てハ。聞キヨ。カシヤ。お  
人倫ヲをシ。聖人の化ヲ立ルレ  
ル。教ハ。不審ナリ。い  
聖人乃他為。別リ人ト身又持



んが。又常は本はく教へたり 上 然る

又常のそ本は。あはれを謂きよあるをん

又常は命の物なり。別ち天より賜はる。

性とは是は中なり。 上 抑性といふ事は

人れ有生のそ初。天より受るを理たり

そ即ち悪は 上 なるも然は 上 皆

悪との交らるとい 上 悪はあり然 上 云

事うな 上 實を能や人の身は 上 かく

教へのおろすは。五倫のそも乱をなん

まぬ。唐土我朝と。國はかまぬを 上 する

聖のを 上 隔てなく。治るを 上 あり

う 上 夫聖人 上

を 上 天 上 出 上 事 上

なれ。又倫を離る。事 上 何 上



けし上  
統きは人乃生れ始に。天を人の園

しと。又常の性成るもや

日  
よぬ人々身はこな。ありのほそ

元是五所の相生をぬ

日  
あ常の本はくをく。抑人偏る。

夫婦を五偏の始。智のふりある

そ。又それより父子の親互に

ちれや。父子より分る兄才乃序ての

親そよ。お長幼の親あれ。そを

朋友を互にすけ多し。実

何れ信り。又子ハ信る君臣乃義

弟の性乃を多し。然れも生れ

り始より身はそなるもあ。聖人

教へを立し。を



生る。

人のこゝろ 天も四季乃教へり。まら始  
み。梅くえぶ。来が秋。常唱し。を柳。桜乃  
色。ゆの。紅。春。夏。子。た。り。ぬ。き。ハ。小。の。梅  
を。深。深。空。ま。写。り。郭。云。る。も。ハ。や。そ。秋  
乃。紫。み。秋。を。あ。し。り。同。の。音。花。の。つ。ら。つ  
云。の。声。も。秋。も。移。る。色。は。あ。い。を。ハ。梅。の。を  
す。え。い。は。い。玉。乃。軒。な。れ。や

是。目。前。乃。天。の。ま。 時。また。え。ぬ。教。へ  
よ。て。天。の。物。を。云。さ。ぬ。も。四。所。は。九。百。物  
成。家。実。久。遠。乃。天。の。ま。長。せ。ぬ。を。し。な  
る。り。や。す。け。て。仁。義。を。保。つ。牙。ハ。四。肢。乃  
こ。の。ま。を。具。さ。ハ。生。く。い。あ。る。年。月。は  
人。の。命。し。を。失。な。ら。て。ち。る。を。ま。の。う。な。め  
教。教。 上 実。や。上。唐。舞。の。市。代。を。は



五倫のそく。有徳

も鏡らよ。戸はぬ。仰代や鳳凰の

うて仰く。ん。かく治まると仰代

なれ。ハ。民の初。く。と。舞の作

韶の樂。舞。び。も。名。も。同。の。も。も。仰。國

傳。ま。は。五。常。樂。も。足。ら。ぬ。や。今。上

を。く。の。音。く。て。國。と。み。民。も。鏡。ら。よ。

舞の仰代も若。ふ。す。い。は。は。は。

於。そ。舞。の。世。代。例。も。も。常。樂。を。舞。

魚。一。や。樂。有。徳。の。お。や。

教。も。樂。も。舞。の。世。乃。有。徳。を。わ。る。ま。

う。何。も。や。是。も。世。乃。後。幾。も。代。り。て。照。す。

らん。仰。く。も。思。う。か。る。世。も。も。も。や。

い。こ。も。も。も。ハ。実。民。草。も。い。こ。も。も。

や鳳凰乃。い。こ。も。も。徳。後。の。世。の。今。い。



日  
ゑみ音福手我君乃榮乃末乃  
音樂乃調子乃民の初々基ひな  
き



OU
IV
105